

# 各府省別ヒアリング資料 (環境省)

環境省 宇宙関連予算  
平成24年度補正予算要求・平成25年度当初予算要求（変更点）

環境省地球環境局  
総務課研究調査室  
03-5521-8247

平成24年度補正予算

○いぶき（GOSAT）観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備（19億円）

本要求は、25年度当初予算要求37億円のうち、当初予算を使用して実施している研究開発事業と並行して着手可能な研究開発事業（19億円）の前倒し。

平成25年度当初予算（変更点）

○いぶき（GOSAT）観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備（37億円 → 18億円）

当初要求のうち、補正予算で計上しなかったものを、26年度予算として改要求する。

これは、開発を進めるに当たり、左記の前倒しで実施する研究開発の成果を踏まえることが必要であり、今年度中の着手が技術的に困難な部分（18億円）にあたる。

# いぶき (GOSAT) 観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備

事業期間 (平成21~34年 (後継機: 開発段階 (平成24年度~平成29年度打上予定))

総事業費 約380億円 (運用費含む。環境省、文部科学省で応分負担。) /

平成24年度補正要求額 1,900百万円 (平成24年度1,352百万円)

## 事業の概要・目的

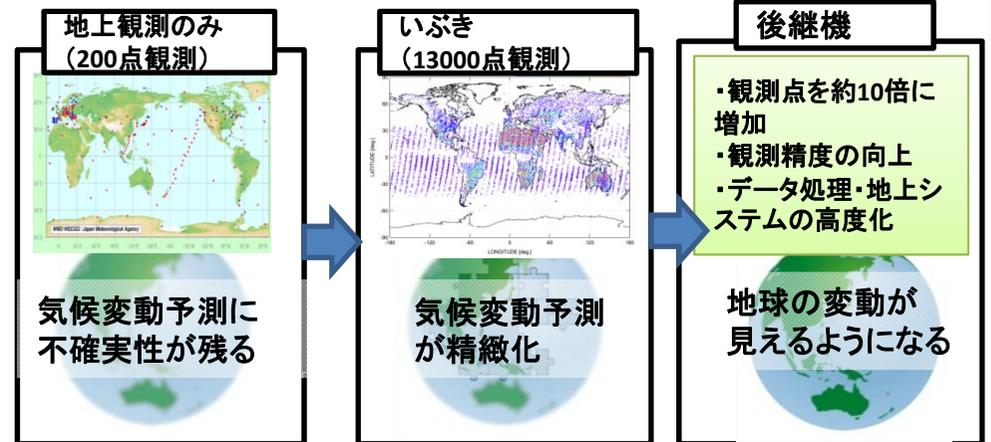
### 事業の概要

世界で唯一の温室効果ガス専用観測衛星である「いぶき」は、環境省、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 及び国立環境研究所 (NIES) により共同で開発され、平成21年に打ち上げられた。以降、順調に観測を続けており、全球を多点かつ精度良く観測し、その高度な機能によって世界をリードしている。さらに、平成26年1月に設計寿命を迎える「いぶき」の後継機開発に、関係機関と連携し、平成24年度より着手した。

### 事業の目的

- 全球的な気候変動政策への貢献 (低炭素社会開発の推進)  
国別レベルのCO2吸収排出量の推計等により、中国インド等の途上国を含む全球のCO2吸収排出量を把握し、全球的な低炭素社会開発にむけた対策推進のための情報を提供する。
- 気候変動に関する科学の発展への貢献  
「いぶき」現行機より観測対象ガスを増やし観測精度を一段と向上させた後継機による継続的・体系的な観測を行い、大規模な炭素循環の変化の解明、気候変動予測の精緻化など、科学的知見の向上に貢献する。
- 宇宙からの観測による国際的協力体制の構築  
CO2等観測について観測衛星の計画を持つ欧米等の諸外国との連携により、データの信頼性向上を図る。また、これらの協力を通じ日本のセンサー技術やデータ解析技術の国際標準化を図る。

## 事業イメージ



後継機では観測気体の追加を検討  
 現行機: CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub> → 後継機: CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、CO、NO<sub>2</sub>

## 後継機開発・年次計画 (予定)

